

7世紀の大和地域には、『飽波（阿久奈弥）評（こおり）』という行政区があり、天武紀には『倭国飽波郡』の名前があります。ところが、大宝律令以降の郡名としては確認されません。平安時代中期作成の『和名類聚抄』には、現在の飽波神社のあるあたりは飽波郷として記されている。

コラム

す。これらのこと
とから推測す
ると、かつて
この辺りにも
アクナミ評
（こおり）が
あり、その後、
大和地方の事
情により、律
令以降に郡に
なれなかつた
ものの、平安
時代の以降、
この評という
名前を地名と
したのではない
でしようか。
「評」が「郡」
になったのだ
と思います。



未来へ続く道標
藤枝大祭り

コミュニティ・スクール新聞

発行所 藤枝
中学校区学校
運営協議会
事務局

くして、未へ続
道標なり。
る我らの誇りに
りは、今を生
じぬ、藤枝大祭
本遺産の名に恥
りの力なり。ぞ日
えも、祭りに支
と。祭りに出ずし
心。込め茶の接
待に瞳、汗、吹、見
守るき手の息、ま
曳祭りの奥、揺
で、祭りの奥、揺
れ、地は人波に揺
街、地は人波に揺
空に響く。旧市
味線と太鼓の音、
と老若の声、三
車のの軋み、長唄
秋の三日間、山
藤枝の街、盛



・祭りの練習など、顔を覚えて、もらったりして、当日の3日間、話したりして楽しむことができた。さらに、伝説のある地踊りでは、本物の三味線やお囃子、長唄の生演奏で踊れて、こんな機会、大祭りがなければきつくないと思うので、すぐ貴重な経験ができました。3年後の大祭りも楽しみです。

・1ヶ月程前から踊りの練習が始まりました。練習はずっと室内で行われていたのですが、慣れない草履をはいて踊ると、すぐ足が痛くなつたし、練習よりも上手に踊れませんでした。でも、踊りを見て拍手してくれたり、人もうれしかったので、他地区とたの踊り披露の場面では、地区に異なるので、他の地区の文化を感

高校3年生の次回も参加したいと思いました。

参加した中学生の感想